

大会 1 日目：10 月 19 日（土） ●受付（国立スポーツ科学センター陸上競技場）

9:00～ － 受付

9:50～10:10 － 開会式

10:20～11:20 － 一般口頭発表①

座長：下門洋文（新潟医療福祉大学）

11:30～12:15 － 一般口頭発表②

座長：山川啓介（日本女子体育大学）

13:15～14:15 － 一般口頭発表③

座長：尾関一将（大阪体育大学）

14:30～15:45 － 一般ポスター発表

座長：水藤弘吏（愛知学院大学） 14:30～

成田健造（慶應義塾大学） 14:50～

森山進一郎（東京学芸大学） 15:10～

15:30～17:20 － NTC イースト見学ツアー

17:30～19:30 － 懇親会・協賛企業プレゼンテーション（情報交換会）

（味の素ナショナルトレーニングセンター大研修室）

10 月 20 日（日）

9:30～11:00 － シンポジウム 「アンチ・ドーピング」これまでと、これからと

～ 薬剤師・指導者・医師・弁護士の立場から ～

座長：清水顕（医療法人社団 SKAY しみず整形外科リハビリクリニック・公益財団法人日本水泳連盟アンチ・ドーピング副委員長）

【薬剤師】 朽津彩子（国立研究開発法人 国立成育医療研究センター）

【指導者】 八塚明憲（金田スイミングクラブ代表取締役社長）

【医師】 辰村正紀（筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・茨城県厚生連総合病院水戸協同病院）

【弁護士】 望月浩一郎（虎ノ門協同法律事務所）

11:15～12:00 － 一般口頭発表④ 座長：植松梓（獨協医科大学）

13:00～14:30 － パネルディスカッション 「世界と戦うための強化プラン」

司会：萬久博敏（鹿屋体育大学）

・太田伸（枚方スイミングスクール）

・奥野景介（早稲田大学）

・下山好充（新潟医療福祉大学）

14:45～15:15 － 総会

15:15～15:30 － 閉会式

一般口頭発表① (10月19日(土) 10:20-11:20)

座長：下門洋文 (新潟医療福祉大学)

- o-1-1 クロール泳におけるストローク頻度増加に伴う筋活動様式の変化
中村優介 (筑波大学大学院)
- o-1-2 短距離クロール泳中の体幹ローテーションが手部速度に及ぼす影響
兵頭洋樹 (筑波大学大学院)
- o-1-3 間欠的全力クロール泳時の泳動作と手部にはたらく流体力の変化
加地智哉 (鹿屋体育大学大学院)
- o-1-4 クロール泳が背泳ぎよりも速く泳ぐことができる理由を抵抗力と泳動作の観点から検証する ～超一流競泳選手1名を対象として～
成田健造 (慶應義塾大学)

一般口頭発表② (10月19日(土) 11:30-12:15)

座長：山川啓介 (日本女子体育大学)

- o-2-1 平泳ぎ中の手部における流体力獲得技術の指標の考案
古賀大樹 (筑波大学大学院)
- o-2-2 男子競泳選手における平泳ぎキック動作時の下腿筋活動 ～足関節可動域に着目して～
松井登茂美 (筑波大学大学院)
- o-2-3 男子平泳ぎ未習熟者におけるキック動作の技術指導法
岡崎晃一郎 (筑波大学大学院)

一般口頭発表③ (10月19日(土) 13:15-14:15)

座長：尾関一将 (大阪体育大学)

- o-3-1 水中運動における「水中横歩き歩行運動」が脳卒中片麻痺患者の「下肢、相反収縮」の抑制に役立つ
水野加寿 (日本水治運動療法協会)
- o-3-2 大学生競泳選手の心理的コンディションとポジティブ感情との関連性
栗木明裕 (筑紫女学園大学・久留米大学大学院)
- o-3-3 小学校高学年児童を対象としたクロール泳動作の観察的動作評価法の検討
三浦遼 (筑波大学大学院)
- o-3-4 水泳における早期教育が泳力に及ぼす影響に関する研究
横山怜音 (広島大学大学院)

一般口頭発表④ (10月20日(日) 11:15-12:00)

座長：植松梓 (獨協医科大学)

- o-4-1 異なる肺気量が水泳中の身体重心高、前方投影面積、浮力に与える影響 ～デジタルヒューマン技術を用いた試み～
鷺野壮平 (産業技術総合研究所)
- o-4-2 競泳のストリームライン姿勢における体幹内形状の変化は蹴伸び距離に影響する
吉田直記 (東北大学病院)
- o-4-3 アーティスティックスイミング上位国のテクニカルルーティン分析
藤島遥香 (日本オリンピック委員会)

一般ポスター発表 (10月19日(土) 14:30-16:00)

座長: 水藤弘吏 (愛知学院大学) 14:30~

- p-1 競泳リレー競技における最速引き継ぎスタート方法の検討 ~台上動作に着目して~
佐藤大典 (びわこ成蹊スポーツ大学)
- p-2 競泳リレースタートにおけるステップ動作がパフォーマンスに与える影響
鈴木天理 (鹿屋体育大学)
- p-3 競泳背泳ぎスタートにおける補助装置の高さがスタートパフォーマンスに与える影響
尾関一将 (大阪体育大学)
- p-4 モーションセンサを用いた水中ドルフィンキック中の下肢関節運動の測定
山川啓介 (日本女子体育大学)
- p-5 疲労によるクロール泳の上肢動作と手部推進力の変化
甫本研太 (筑波大学大学院)

座長: 成田健造 (慶應義塾大学) 14:50~

- p-6 競泳女子 800m 自由形における日本記録保持者と国内一流選手のストローク指標の比較
水上拓也 (大阪体育大学)
- p-7 ストリームライン姿勢の特徴、体格、体組成と競技レベルとの関係
角奈那子 (株式会社アシックス)
- p-8 主運動前の呼吸筋疲労が 100 m 全クローリング泳に与える影響
村中みいな (筑波大学大学院)
- p-9 自転車エルゴメータを活用した高校男子水球選手の最大牽引力およびパワーの経年的変化
若吉浩二 (大阪経済大学)
- p-10 水球男子日本チームの世界選手権 2019 におけるデータ分析
洲雅明 (大分県立芸術文化短期大学)

座長: 森山進一郎 (東京学芸大学) 15:10~

- p-11 低水温状況下での長時間水泳が体温低下にもたらす影響 ~高校生スイマーを対象に~
野尻奈央子 (福井工業大学)
- p-12 オープンウォータースイミング愛好者の実態に関する調査研究 ~NOWS 石垣島大会参加者への半構造化面接調査結果から~
大越正大 (東海大学)
- p-13 オープンウォータースイミング愛好者の実態に関する調査研究 ~NOWS 石垣島大会参加者の質問紙調査結果から~
松本秀夫 (東海大学)
- p-14 アーティスティックスイミング選手と水球選手の肢間協調能力の違い
ワッタカウオーラクン ラウイサラ (筑波大学大学院)
- p-15 水中ホッケーを用いた授業の教育的効果に関する実験的検討 ~大学生を対象として~
前潟快 (広島大学大学院)